

朝日ヶ丘公民館だより 6・7月号

TEL 043(272)4961 FAX 043(271)6994 ✉ asahigaoka@ccllf.jp

「つどい まなび つなぐ ～地域の皆様に愛される 地域主体の公民館をめざして～」

技術・知識・意識の共有

大リーガーのダルビッシュ有投手は、9種類（11種類とも）の変化球を自在に操ることができると思います。あれだけの快速球を持っていながら「僕は変化球が好きなんです」と言うほどで、変化球の修得に熱心で、研究を絶え間なく続けているそうです。

驚くことに、彼は、9種類の変化球のボールの握り方、投げ方を映像に撮り、惜しげもなく誰もが見られるようにしています。

何故自分だけのものにしないのでしょうか。専売特許として極秘にしておけば、自分だけにしか投げられない「魔球」となるものを。彼は言います。「隠しては大リーグ全体の発展に繋がらない」「大リーガーのピッチャーの質が向上すれば、結局はそれが自分の成長につながる」と。

更に、ダルビッシュ投手と同じ考えをもち、自分の得意とする変化球の投げ方を公開している投手もいること。その投手の投げ方を真似て、変化球を身につけた別の投手が大リーグで活躍していること。そして、自分の得意球の投げ方を公開した投手が、その投手の活躍を喜んでいることにも驚かされました。

ここまでの動きは無いにしても、日本のプロ野球でも似たようなことが起きています。例えば、合同自主トレがそうです。昔は、他のチームの選手と一緒に練習するということはありませんでした。同一チームの何人かが集まり練習したものです。今は、優れた技能や身体能力を有する超一流の投手や打者のもとに、他のチームの選手が合同練習を申し込み、受け入れられれば寝食を共にし、一緒に練習することは珍しいことではなくなりました。

特に、パリーグではこの動きが活発のように感じます。高い技術の共有によって、パリーグの投手全体のレベルが上がり、また、打つのが難しい質の高いボールを打つことによって、打者のレベルも上がったと言われています。ダルビッシュ投手の言う通りのことが日本でも起きているのです。「出し惜しみ」は結局衰退を招くのです。

技術の共有、知識の共有、モラルの共有などは、正にサークル活動の根幹をなすものではないでしょうか。様々なことを共有することによって、レベルアップできそうなこと、レベルアップしなくてはならないことに活かせるような気がしました。

我々職員も技術・知識・意識の共有によって、レベルアップしていかなければならないと感じます。まずは、「共有しようとする気持ち」を一人一人が持つことが必要だと思っています。

「共有財産」＝「共有することが財産となる」といった意味に捉えたいと思いました。